

スーパー堤防に代わる耐越水堤防の建設を求める陳情

(建設委員会付託)

受理番号 第 100 号

受理年月日 令和 8 年 5 月 25 日

付託年月日 令和 8 年 6 月 19 日

陳情者
.

陳情原文 越水に対して唯一壊れない堤防とされるスーパー堤防は、越水に耐えるために土の堤体を 30 倍に拡幅するもので、その建設手法のために、住民の生命・財産を守るという目的に反して完成を見通すことができていません。

この土のスーパー堤防に代わる耐越水堤防の工法に「連続地中壁工法」があります。これは、既存の堤体の中に鋼管や鋼板で連続した壁をつくる堤防強化の有力な工法ですが、国は「堤防は土でつくるものとする」として、この工法を認めていません。

しかし、土の堤防にこだわらなければ、新しい知見や可能性が見えてきます。

昨年、オランダが気候変動による海面上昇や洪水から国土を守るという国家的治水事業「デルタプログラム」でこの工法が採用されました。

この工区の総延長 10 km に及ぶ盛土の「土堤」の中に鋼管杭と Z 型鋼矢板の圧入による複合壁を構築するもので、まさに「連続地中壁工法」であり、沿川 20 万人以上の命と生活を洪水被害から守る堤防強化工事となります。

人口の 70% が海面下の土地に住むというオランダで、この工法が採用された意味は大きく、工法への高い信頼性を示すものであり、日本の工法評価は見直すべきと考えます。ちなみにこの受注企業は日本の企業であり、独自開発の杭圧入機と工法の採用により、なにより住民移転の必要がなくなり、堤防建設の工期、工費の大幅縮減が可能となります。

つきましては、下記のとおり陳情いたします。

記

土の堤防にこだわらない、新しい工法の採用による耐越水堤防の建設を求めます。